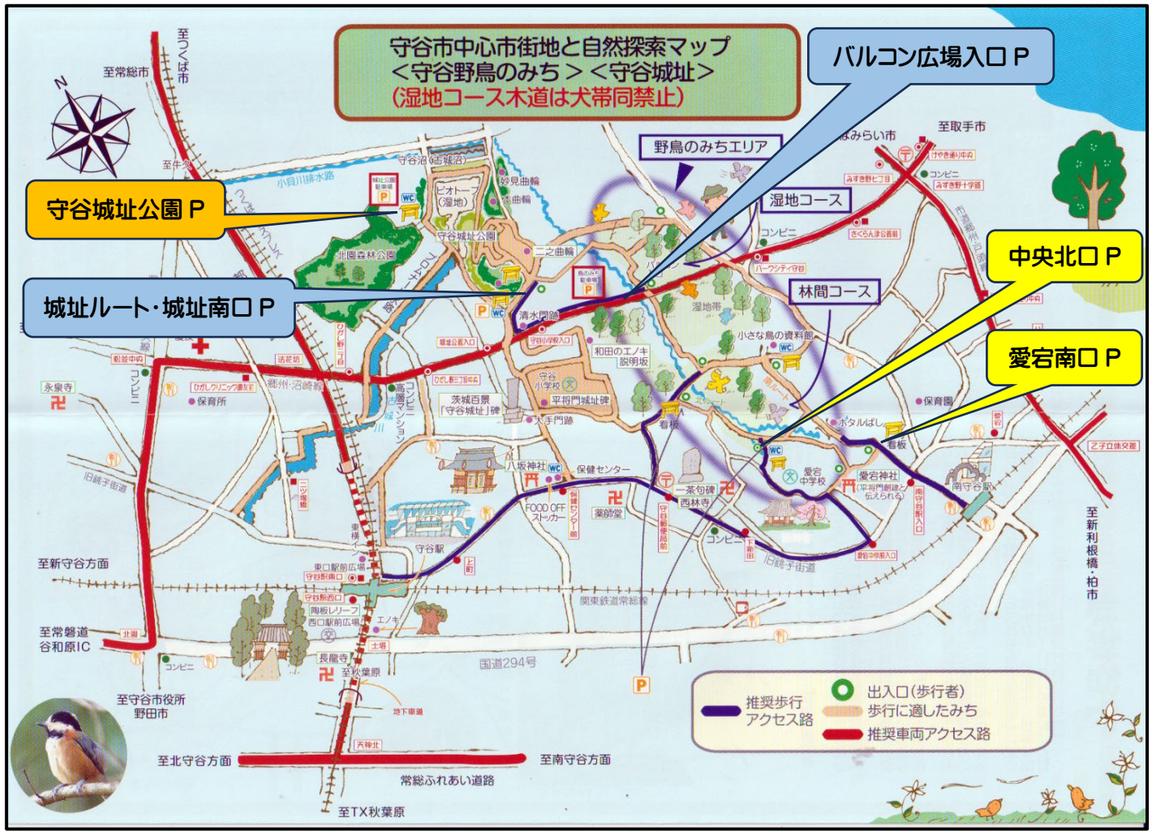
市民手づくりの自然歩道「守谷野鳥のみち」+ 守谷市指定史跡「守谷城址」のご案内



＜アクセス＞

徒歩：　TX・関鉄守谷駅八坂口　→守谷野鳥のみち林間コース中央北口（約30分）
　　→守谷城址公園（約20分）
　　関鉄南守谷駅　　→守谷野鳥のみち林間コース愛宕南口（約 10 分）

バス：　TX・関鉄守谷駅西口：市営モコバス「みずき野・松並青葉ルート右回り」
　　愛宕中学校前下車（徒歩約10分）→守谷野鳥のみち林間コース中央北口
　　TX・関鉄守谷駅東口：関鉄バス取手駅西口行き城址公園入口下車
　　（徒歩1分）→湿地コース城址ルート・城址南口
　　TX・関鉄守谷駅東口：関鉄バス取手駅西口行き守谷小学校前下車（徒歩2分）
　　守谷野鳥のみち湿地コースバルコン広場入口

車：　湿地コース：市道郷州沼崎線「鳥のみち専用駐車場（無料）」（守谷小学校職員駐車場近く）　（カーナビ MAPCODE＝18.405.147*66）
　　林間コース：市立愛宕中学校正門前左折学校敷地沿い直進約 90m（標識あり）　（カーナビ MAPCODE＝18.375.740*17）
　　城址ルート・城址南口：市道郷州沼崎線城址公園入口交差点南 30m 東入る 90m　（カーナビ MAPCODE＝18.405.387*01）

管理者：守谷市観光協会　連絡先：守谷市生活経済部経済課商工観光Ｇ（☎0297-45-1111　内線 268）
HP；https://moriyashikanko.com　休日などの緊急連絡先：☎090-8170-1898　本紙制作：2025. 10. 3

守谷野鳥のみち総延長 4.6km ルート概略図（各図はウラ面）

湿地コース（総延長 2.6Km）

～上流域（木道・デッキ）	300m
～下流域（木道・デッキ）	330m
～小鳥の道（林道）	110m
～城址ルート（木道・デッキ）	320m
～接続市道	1,530m

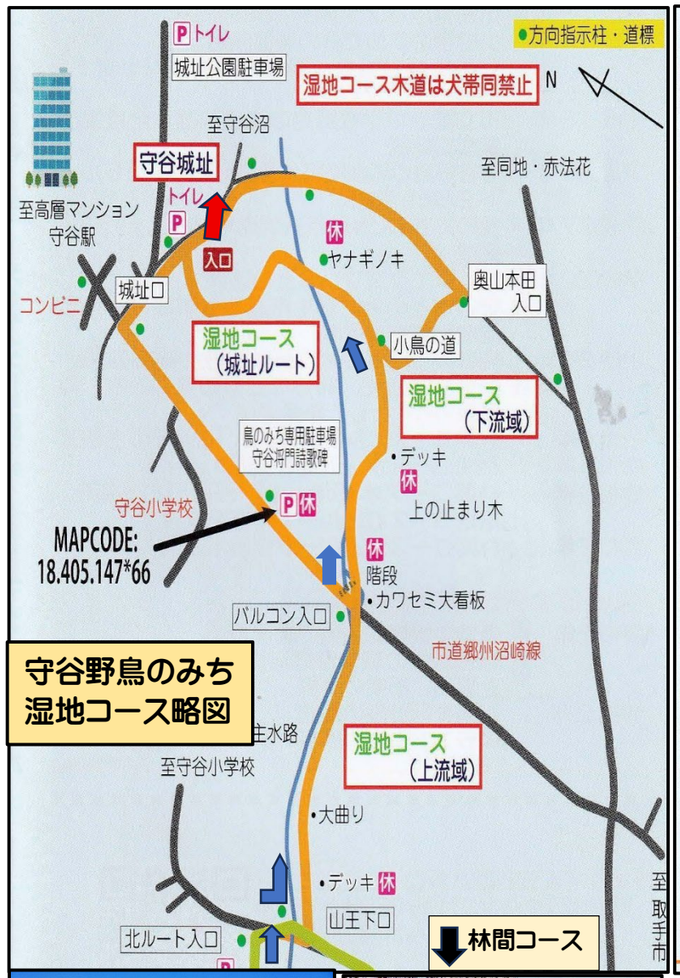
林間コース（総延長 2.0km）

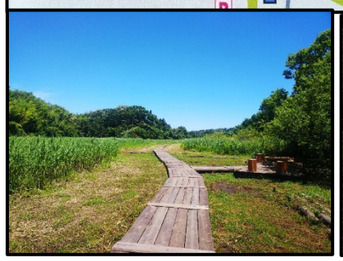
～北ルート（林道）	130m
～水辺ルート（木道・デッキ）	160m
～水辺広場（木道・黒板小屋）	130m
～中央東ルート（林道）	180m
～中央西ルート（林道）	120m
～藤の園（林道・木道・デッキ）	130m
～南ルート（林道）	450m
～接続市道	720m

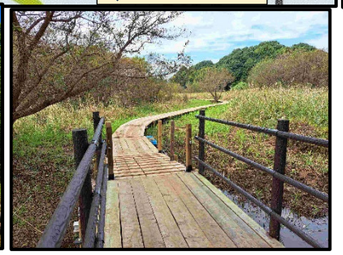
守谷野鳥のみちご利用上の注意事項

～都市公園ではありません　ワイルドな自然環境を自然との共生で利用させて貰っています
全域では自己責任での利用が大原則です
身の安全はご自分でお守りください

①服装：肌を露出させない服装、手袋、帽子、しっかりした靴が必要
②利用時間帯：夜間・薄暗い時間帯の立ち入りは禁止（危険な動物に出会う可能性あり）
③利用制限：　歩道外・水路は立入禁止、ランニング禁止、各種ゲーム・スポーツ行為の禁止、自転車・乳母車・車椅子など器具の持込み・走行禁止、騒音行為・目的外使用はお断り
④犬ペット帯同禁止：色々の弊害・危険性あり
⑤餌付け：野鳥や動物への餌付けは絶対に禁止（自然界のバランスが崩れ危険）
⑥イノシシ：各入口に掲示の警告板を熟読、しっかり厳守（習性をよく知ること）
⑦採取・投棄：　植物の採取・切取りや小魚等の採取は禁止、ごみ投棄・動物等の放棄禁止
⑧火気厳禁：禁煙・火気使用は絶対禁止（火災の危険性あり、結果は法的責任を問われる）
⑨器物損傷：施設や器物への加害行為は絶対に止める（損害賠償請求があり得る）
⑩ルール順守：掲示のルールを守り、皆で楽しみましょう







「守谷野鳥のみち」のハイライト

※平成 14 年(2002)から令和7年(20025)まで 24 年間、行政職員・市民の4名グループの発想に始まり、守谷市観光協会の市民ボランティアたちが主戦力となった、多世代・多セクターの絶えざる努力の結晶　圏域面積：70 ヘクタ-ル
国内外の先進事例を参考に、全国でも珍しい市民の創意工夫による手づくり総延長 4.6km の自然歩道ネットワーク

※近隣小中学生たちが参加した林地道路脇の不法投棄ごみの撤去に始まり、レベルアップに応じて随時守谷市職員や愛宕中学校野鳥の森少年団（全校生徒）が作業に協力、守谷市との協働、首都圏新都市鉄道㈱（つくばエクスプレス）との連携、アサヒビール㈱茨城工場の協力などの事業フレームで展開中
土地所有者の用地提供や近隣常連さんの情報提供、茨城県森林組合連合会や各界企業の協力なども大きなサポートとなっている

※中心市街地隣接の大規模緑地の保全・増進と有効利活用から、「中心市街地（都市環境）と守谷城址（歴史環境）を直結する自然歩道（自然環境）」の強化、「住みよいまち守谷」の重要な構成要素である都市環境と自然環境のバランス維持、守谷市の魅力創出・地域発展軸の一つとしての展開など、目的・目標をどんどん進化（深化）させている

※耐久性維持のため茨城県北産ヒノキ原木を主資材に、創意工夫による手づくりで利用者視点の計画・整備、改良・改善を進め、各セクターの協力により恒久性の担保を図っている

守谷城址略史

※平将門築城説は伝説の域を越えず、その子孫と言われる相馬氏の居城は間違いない

※戦国時代末期、関宿城主が小田原北条氏4代氏政の了知のもとに守谷領支配を企み、その野心を察知した相馬氏 20 代治胤は北条氏政の支配者で氏政の従兄に当たる足利将軍家古河公方足利義氏に守谷城進上を申し出、受理される
手狭との義氏の苦情に接し、北条氏政直々の出馬・采配で守谷城は平地・城山の二元構造に拡張され、北相馬台地から内海に突き出た半島部は大堀切・空堀・土塁曲輪・土橋・枡形虎口・船着場などのある後堅固の要害に大改造される（永禄 11 年＝1568）
結果は公方御座所になることはなく、壮大となった守谷城は相馬氏に返還される

※北条氏支配下の守谷城は、北条氏軍勢の出陣基地となったが城攻めにはならず、小田原攻めの際に豊臣方に接収され、その後江戸時代に設置された守谷藩の詰城となる
初代藩主は徳川家康三河時代の近習土岐定政、その後土岐定義・頼行で 2-3 代、4代は後の大老堀田備中守正俊、5代（最後）は前大老酒井忠清の嫡子酒井河内守忠挙
平地部には藩邸（陣屋）が置かれ、大手門から町立てが行われ、鎮守の八坂神社が移座され、目抜きの中央に排水溝のある立派な城下町が形成されて、地域の中心となっていた
元和元年（1681）5代藩主酒井忠挙の厩橋藩転出により廃藩・廃城となり、収公される

※廃城後は、破却されることなく、平将門ゆかりの古城として、広島藩の全国古城調査や関宿藩士の縄張り調査に始まり、多くの武士・文人・小林一茶などの俳人・旅行者などが訪れ、俳句、和歌、紀行記、古絵図・伝記などが遺されている

※現在、藩邸（陣屋）などのあった平地部は隠滅されているが、城山部はほぼ原型が保存されており、当時の姿を彷彿させるイラスト説明板などが設置されている
つくばエクスプレス沿線で小田原北条氏の手になる中世城郭の遺構としては最大のもので、北条流築城術の特徴が後世に遺され築城者の息吹が感じられ、周囲が内海だった頃と同じで二の曲輪櫓台横から常総の野が遠望されるなど、景観面でも優れている
なお、城山の一部と内海跡は、現在は守谷城址公園が整備され、自然たっぷりの憩いの場は知る人ぞ知る、自然と歴史の豊かさが感じられる魅力スポットとなっている

※守谷城址（城山部）では、守谷市の管理に協力して、守谷市観光協会が環境整理・復元、説明板・案内板を設置、利活用を推進している

守谷城址の推奨見学スポット

～御馬家台枡形虎口、大堀切（全域）、二の曲輪展望台、二の曲輪西土塁線、土橋、楯形曲輪、二の曲輪坂桝形虎口、船着場跡など